

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年1月15日（木）

2 確認箇所

- ・伐採木一時保管エリアG（図1）
- ・使用済燃料乾式キャスク仮保管設備（図1）

3 確認項目

- （1）伐採木一時保管エリアGの状況
- （2）使用済燃料乾式キャスク仮保管設備増設工事の状況

4 確認結果の概要

（1）伐採木一時保管エリアGの現況

東日本大震災後に福島第一原子力発電所構内の敷地造成等により発生した伐採木のうち、枝葉は破砕・減容後、構内に設置された伐採木一時保管槽※（以下「一時保管槽」という。）に保管されている。当該エリアの解消に向け、一時保管された伐採木を焼却炉にて焼却する計画があることから、本日は、エリアGの一時保管槽の状況を確認した。（前回確認：[令和7年7月18日](#)）

- ・一時保管槽は遮水シートで覆われており、一時保管槽ごとにガス抜き管及び温度計が設置されていた。（写真1）
- ・槽内の温度は、14℃から40℃の範囲にあり、東京電力が対応を行う基準である60℃を下回っていた。（写真2）
- ・確認した範囲では、内容物の周囲への飛散や流出及び遮水シートの破損は確認されなかった。

※ 伐採木一時保管槽：伐採木のうち枝葉を破砕・減容化（チップ化）して一時保管する施設であり、擁壁または築堤で保管槽を設置し、枝葉を充填後、保護シート＋覆土＋遮水シートで覆い、防火対策や線量低減対策を講じたもの。伐採木一時保管エリアG及びTに設置されている。

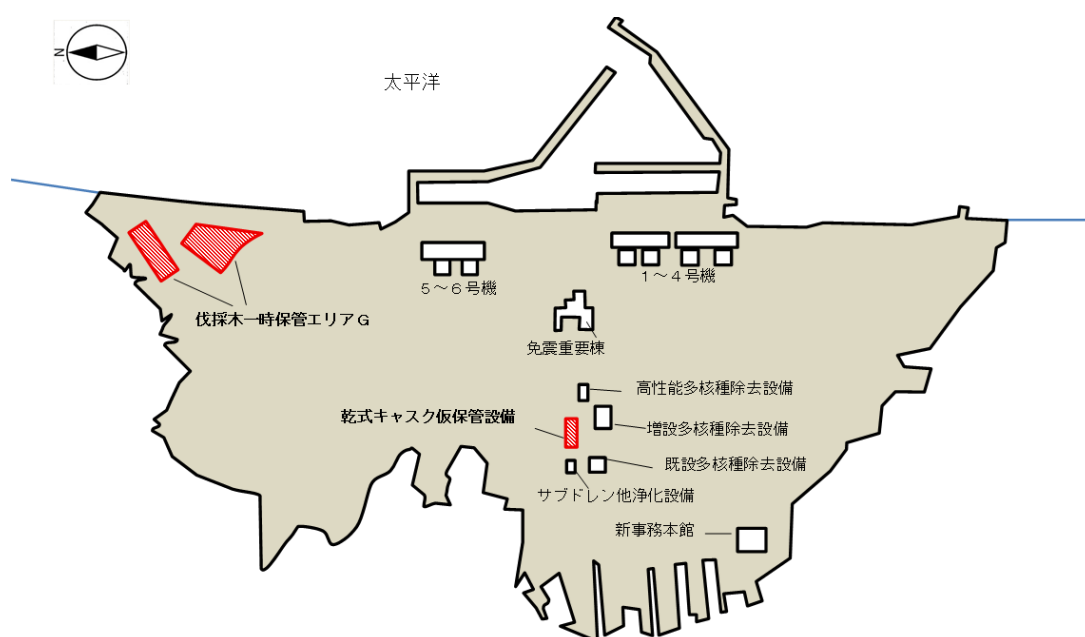
（2）使用済燃料乾式キャスク仮保管設備増設工事の状況

東京電力では、各原子炉建屋の使用済燃料プールで保管している使用済燃料について、より安全性の高い共用プールにおいて集中管理するため、各使用済燃料プールから共用プールへの移送を進めている。一方、共用プールでは保管容量を確保するため、十分に冷却が進んだ使用済燃料を乾式キャスク（1基あたり使用済燃料を69体収納可能）に装填し、構内の使用済燃料乾式キャスク仮保管設備（以下「仮保管設備」という。）に移送し保管している。しかし、現在の仮保管設備では想定する保管容量に満たないため、令和5年2月に保管容量を30基増設する工事が開始された。増設される箇所の運用開始は令

和8年10月頃を見込んでいる。なお、仮保管設備の保管容量は令和7年12月末時点で、上限（65基）に達している。

仮保管設備敷地東側の増設箇所では、工事が現在も継続中であることから、その進捗状況を確認した。（前回確認：令和7年11月4日）

- ・増設箇所の基礎部分のコンクリート打設は完了しており、コンクリートを流し込む型枠は撤去されていた。（写真3）
- ・増設するキャスクの基礎の配筋作業が行われていた。（写真4）
- ・増設箇所の東側では重機によるアスファルトの撤去作業が行われていた。（写真5）
- ・重機作業においては、監視員が設置されており、安全に配慮して作業が行われていた。



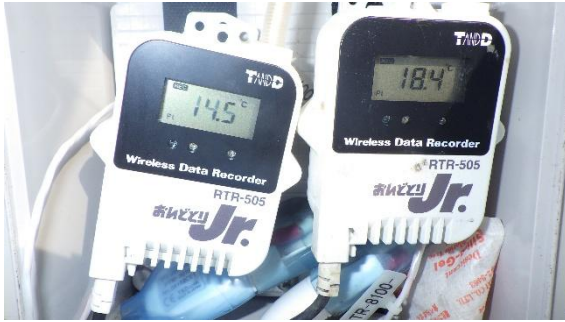
（図1）福島第一原子力発電所構内概略図



（写真1①）一時保管槽の設置状況



（写真1②）温度計の設置状況



(写真 2 ①) 温度計の指示値①



(写真 2 ②) 温度計の指示値②



(写真 3 ①) 増設箇所の基礎 (南側)



(写真 3 ②) 増設箇所の基礎 (北側)



(写真 4) キャスクの基礎の配筋作業



(写真 5) アスファルト撤去作業

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。